

○4期 Mさんからメールと添付ファイルによるご発言をいただきました。

以下にご紹介します。(下線及び緑の文字部分は都支部より)

<メール文>

役員の皆様

お疲れ様です。

「食育プロジェクト廃止」の件で、

会員のご意見及び役員の皆様のご回答や拝見して、もう一度意見を述べさせていただきます。

東茶協の人間として、役員の皆様のご苦勞を把握しておりませんでした。意思疎通が出来ていなかったことが残念です。

が、食育プロジェクトを立ち上げた人間として、自分の中でどうしても納得・整理がつきません。

チーフの皆さんの気持ちを楽にしてあげたくて、チーフを下りてサポート側に回りました。

自分の仕事や家庭を後回しにして、頑張ってきたものですから・・・

最後の気持ちとして、しつこいですが意見を述べさせていただきます。

色々とお世話になりました。

M (4期)

<添付ファイル>

会員の質問や意見の投げかけについて、一つ一つお答えを頂いていますが、総会における会議になっていないように思います。意見に対しては、すべてNOの答えしかなく、会員が提案をしていても結局は一番ご苦勞をされていらっしゃる役員の皆さんに従うしかありません。総会が実施されて意見交換をしても、中止になっても結果は同じなんだと思いました。

仰る通り、総会が実施されて、皆様と直接言葉を交わすことができている、同じ答えをしています。『NOの答え』ではなく、議案に対して、ご意見、ご質問を頂いたので、それに対する説明です。

また、今回の提案は、『現在、苦勞している役員の為』ではありません。将来的に、このままのスタイルで食育プロジェクトを継続することは困難である、という判断をした為です。理由は、総会資料に記載し、また、Lさんへの回答にも詳しく述べさせて頂きました。総会の場で、現状を理解して頂き、今後についての方向性を皆様に決めて頂く為の提案です。

この議案に対し、反対多数、ということであれば、プロジェクトの継続ももちろんあり得ます。

また、「チーフ不足」との事ですが、今期は「新チーフ」を誕生させるための研修会を計画されていたようですが、なぜ実施されなかったのでしょうか？希望者は3名程いらっしゃると思います。そのためにチーフの皆さんは、プログラムを作成するために大変なお時間を費やされた事と思います。やはり、総会で決議を行わなくても「廃止」にされることは決定しているってことですね？

『チーフ公募』の説明会を直前で中止したのは参加を予定して下さっていた方々には本当に申し訳ないことであつたと思っています。

この説明会は、チーフは食育スタッフとして参加回数の多い方に直接お願いする、いう方法が困難となり(お引き受け下さる方がいない為)、食育スタッフとしての経験が浅い方であっても、食育にご興味があり、チーフの業

務をご説明した上で、「チーフを引き受けても良い」というご意志があれば、これから積極的に食育授業に参加して頂き、スタッフの業務に加え、『将来のチーフ』として、その業務を学んで頂く、というものでした。チーフの業務は多岐にわたり、実際に立ち回して頂く為には、参加可能な回数などによる個人差はあれ、1年はかかるであろうと予測していました。説明会后、チーフ希望者がいらっしゃれば、その方への「チーフになるための教育プログラム」も現チーフの方にお問い合わせする予定になっていました。正直、大変な負担であると思います。しかし、現状、「辞めることが困難」となってしまう食育チーフの皆様にとっても、これによって新チーフが誕生すれば、最終的にはプラスである、という判断でした。

この説明会は、かなり以前から計画し、事実、講師をお願いしていた方々には役員会との打合せや資料作りなど、大変お手数をおかけしました。総会資料にもあります通り、本来、「継続困難となっている食育プロジェクトを何とか立て直そう」、というのが役員会の意思でした。「子供達に、日本茶について学び、楽しんでもらう機会を作る」ことは、それ自体、素晴らしいことだと思うからです。

しかし、現状の把握に伴い、将来的に食育プロジェクトをこのまま継続することは困難であると考えに至り、今回の提案をする決定をしたのが、この説明会の直前でした。

ただ、「総会に提案」することイコール食育プロジェクトの廃止ではありません。総会での賛成多数を得て初めて決定することです。説明会の時点では、結果については予想することはできません。また、仮に、現在の組合からの請負、という形式が変わったにせよ、組合の食育事業が継続され、都支部の会員が実際の業務を引き受ける限り、チーフの業務を行う方々は必要です。さらに、1年間の移行期間は、プロジェクトそのものも存在しています。従って、「説明会自体は行う」というのが役員会の考えでした。

このことを、講師をお願いしていた方々にお伝えしたところ、提案の趣旨はご理解頂いた上で(提案に対する賛成、反対にかかわらず)「そのような提案の予定があるのであれば、今、説明会を行うことは疑問」とのご意見を頂きました。実際、将来の見通しが分からないままで、というのは、説明も難しくなるのは無理もなく、参加なさった方へは出来る範囲で都支部からの説明もさせて頂くつもりでございましたが、役員間で「講師の方のご意見は尊重すべき」との結論に至り、結果として説明会は中止させて頂きました。

長い説明になりましたが、説明会中止を決めた段階では「総会への提案」が決まっていただけです。今後をどうしてゆくのかは、今、総会参加者の皆様が決めています。

AさんとGさんのご意見は、活動の廃止を検討する際に、東京都支部が自ら主体的に行ってきた唯一の活動を一番初めに行うことに疑問を感じていらっしゃるのだと思います。例えば「100円茶屋」は鹿児島県からの依頼ですが宣伝業務です。主体的に行う活動ではありません。啓蒙活動をする組織として、同じ宣伝業務をするのなら色々な産地を行っても良いのではないかと、そういった中でなら「100円茶屋」の活動には意味があるという事だと思います。

「東京都支部が自ら主体的に行ってきた唯一の活動」とのことですが、その為に都支部が行っていることは「慢性的に不足するスタッフを何とか獲得すること」です。

前回の回答の繰り返しになりますが、食育活動発足当時、食育活動への意欲を持つ都支部会員に対して組合が手を差し伸べて下さった、という歴史は動かしようがありません。しかし、10年以上が経過し、状況は変化しています。現在、少なくとも役員会では「主体的な活動」であるとの認識はしていません。

百円茶屋は外部からの請負活動です。これも繰り返しになりますが、他の産地から依頼があれば、条件次第で検討する事になると思います。百円茶屋は、プロジェクトではありませんが、回数が多いので担当役員を置いています。スタッフ獲得のための努力は必須ですが、食育ほどの問題は、現状では起こっていません。

(開催日が土日であることが大きいと思われます。)ただし、スタッフの待遇改善の提案は主催者に行い、協議を

続けている状態にあります。また、スタッフの募集に対する手数料が支払われており、都支部の財政にとっても正直、有難い活動であると言えます。上記のような面から考えて、百円茶屋は比較的「継続可能な活動」といえます。(但し、気を緩めればスタッフ不足、というのは全ての活動に言えることです。もはや、東京という地域性や、時代の趨勢、会員の性質の変化等、ある意味どうしようもない事情が重なった結果であると思われますが)逆に、「主体的な活動」としてどこかの産地を選んで宣伝活動を行うことは、支部活動としてはあり得ません。「啓蒙活動をする組織として、同じ宣伝業務をするのなら色々な産地を行っても良いのではないか」というのは、具体的にどのような形を指していらっしゃるのでしょうか。

そして、中止となった総会での参加予定者は 38 名だったかもしれませんが、書面決議における総会の場合は、38 名だけでなく、全会員に HP 等で傍聴していただく必要があのではないのでしょうか？
会員が「一任」というのはがきを出された方が多いと思いますが、それは総会予定日に参加が出来ないために、「不参加」「一任」を提出されたのですから。

総会予定日に参加出来ない方が、委任をなさるのは有効な意思表示です。

今回、総会への出欠を伺った段階では、通常の形での総会を行わないことは決定しておりません。(実際、集まったの総会を実施している支部もあり、直前まで考えに考えた上での判断です。)

総会の形式については、東日本大震災時の開催様式に鑑みて行っています。今回は、全てをメールで行うのではなく、資料を郵送し、集まったの話し合いと同じように公開で意見交換の場を作っています。下さったご意見に対する返答に、さらにご意見を頂ければお答えします。メールでも、ご意見を下さるよう促しています。

この総会の出席者数は成立条件を満たしています。形式はメールのやり取りではありますが、意見交換もできる状態です。今回の形式は、今の異常な現実に対し、問題を先送りせず、何とか通常の総会と変わらない形を取ろうと工夫をした結果であり、実際、そうなっていると考えています。

議事録は、後日 HP で全会員にご覧頂くこととなりますが、「傍聴が必要」とおっしゃるのは、具体的にどのような形を指していらっしゃるのでしょうか。

東京都茶協同組合の振興部（日本茶を普及させていくことを目的にしている担当部署）事務局を担当させて頂いている者として、様々な会員のみなさんのご意見や支部の回答を拝見していて、東茶協と都支部役員との間にズレを感じています。

・「食育授業のお断りが出来ない」とのお答えがありましたが、チーフの皆さんのご都合がつかないのでしたら、お断り頂いて良いのです。事実今期は、食育授業を 3 校ほどお断りしております。この活動は「組合はお茶の提供を行い、授業は教えるプロである日本茶インストラクターがする。その関係で東京の子供達に日本茶のすばらしさを伝えていこう」というお互いの思いから始まっています。組合に授業の依頼は来ているものの、東京都支部のインストラクターの皆さんに授業依頼が来ているのですから、授業開催が無理なら学校には断ればよいのです。決して、組合の請負事業ではありません。

「年間の依頼数を制限すること」「スタッフが集まらない場合のお断り、または、組合員の方によるサポート」は以前から組合にお願いしておりますが、合意に至っていません。(石田・多田・桑原)

「事実今期は、食育授業を 3 校ほどお断りしております。」とのことですが、この「3 校お断り」と仰るのは、どの件でしょうか。こちらで組合からのお申込みをお断りしたと確認できるのは以下の 2 件です。

・中学校対象の案件・・・通常の小学生対象の授業と違い、お受け出来るチーフが限られており、その方のご都合がつかなかった為、お断りさせて頂きました。

・社会人対象のシリーズ企画・・・通常の食育授業とは内容が全く異なり、開催時期も差し迫っていたことから、お断りさせて頂きました。

いずれも、今回提案している通常の食育授業とは別のもの、と認識しております。(全く違うお話しでしたら申し訳ございません。)

2019年2月の組合と都支部の話し合いでは、引き受けられるチーフがいない場合の対応としては「実施日をずらす」事に対応してほしい、との申し入れを頂いています。これは、組合振興部長、組合理事長臨席での話し合いです。

また、一旦お引き受けし、スタッフを募集した結果、必要な人数が集まらない、という状態になった場合には、もはや救済の道はなく、何とかスタッフを探すしかありません。昨年については、初参加者の人数が多く、スタッフ不足に陥ったのはかなり後になってからです。しかし、一昨年には、逼迫した状況が何度もありました。

食育担当者から緊急のメールをもらい、勤務中、携帯を会社のデスクの下で打ってやり取りをしたこともあります。(桑原葉子)

東京都茶協同組合のHPには、「私たち東京都茶協同組合では、様々な人に向けて日本茶の伝統と魅力を伝える活動を行っています。その一環として、小学生を対象にした「食育授業」にも取り組んでいます。」とあります。

「日本茶の専門家による説明を受ける」という表現がありますが、「日本茶インストラクターによる食育事業をサポートしています」という趣旨には見えないように思われます。

ただ、前回の回答の際、『東京都茶協同組合のHPには「食育への取り組み」というページがあります。都支部会員の方の写真もたくさん掲載されていますが、「日本茶インストラクター」という言葉は見当たりません。「NPO法人日本茶インストラクター協会東京都支部食育プロジェクト」の名前はどの部分で必要になっているのでしょうか。』と申し上げました。HPには、このページ以外に、食育に関して、2020年2月25日にアップされた

【小学校で日本茶について学ぶ!】食育授業「日本茶教室」レポート、という記事があり、2019年10月26日に行われた中野区立桃園第二小学校での食育授業の様子を伝えています。そこには、ある写真の下に、「学校近隣の組合員と日本茶インストラクターの方々からなるスタッフは・・・」という表現があります。この記事については、もちろん拝見していましたが、前回の回答の時点では、この部分の、日本茶インストラクターという言葉を見落としていました。申し訳ございません。しかし、組合振興部との会議の際に「この食育授業はあくまでも組合の事業だから、各地域のお茶屋とよくよく相談して実施して欲しい」とチーフ達は何度も言われております。

以前の2者会議で、年に20校の食育授業との取り交わしがありましたが、申し込みがあった学校のリストはすべて連絡する事になっており、年に20校は超えていましたが支部では、すべてを受け入れてくださいました。授業内容の完璧さに学校は大変喜ばれ、毎年のように同じ学校から依頼が来ます。スタッフを含むプロジェクトと役員の方々の努力の賜物です。

「年に20校との取り交わし」とは、「年に20校は引き受けます」というお約束をしているということでしょうか。役員間で、そういったものがある、ということ、及び、申し込みがあった学校のリストについては確認できませんでした。(回数的には、過去に年間授業数21回という年が一度あります。)取り違えておりましたら申し訳ございません。しかし、はっきり事実として申し上げられるのは、2019年2月の話し合いで、「スタッフ数の減少に鑑み、校数を制限して頂く事はできないか。」との都支部の申し入れに対し、「引き受けられるチーフがいな

い場合は、別の日に変更することで対応してほしい。(現状通り)」とのお返事を頂くにとどまったこと、さらに、
スタッフ不足に対しては、「スタッフが集まらないのは、授業内容に問題がある為ではないのか。」との指摘を頂
いたことです。後者については、その後、都支部でもよく検討し、食育チーフの協力も得て、改善に努めてきま
した。その結果として、一度参加して、その後は応募しない方が多いことについては、「授業内容に魅力があるか
どうかももちろん関係しているかもしれないが、基本的には個人の事情や興味の問題であり、役員やチーフの努
力で解決出来る範囲は限られている」と判断し、今回の提案に至っています。

チーフの人数に余裕があり、応募する会員が毎回充分にいるのであれば、校数が何校であろうと何の問題もありま
せん。

支部でご苦労されている「チーフ不足」「スタッフ不足」については、東茶協では全くわかりません。役員のご苦
労も理解をしていないと思います。

このような悪化した状態になる前に、改善策はなかったのかと悔やまれます。例えば、月に1校の開催のみに決
める。毎年同じ学校での実施は行わない等、様々な意見をお互いに出し合っていれば、このようなご苦労もなか
ったのではと思います、後悔を致します。

都支部の事情については、すでに申し入れを行っています。組合内でどのようなお話になっているのかは、逆に
都支部には知ることができません。

費用面についても、食育プロジェクトが東茶協の請負のみの組織ならば、研修費用の負担を依頼してもよかった
のではないのだろうか。とも思います。

確かに、スタッフ費についてのお願いはした経緯がありますが(合意には至りませんでした)研修費やチーフ会
議などに要する費用はご相談したことはないかもしれません。少なくとも記録には残っていません。

ただ、費用の問題は、スタッフ不足に比べれば解決しやすい問題であり、一面的なことです。

.....
Mさんが、組合振興部事務局としてのお立場から、この場で発言して下さったことについては、心から敬意を表
します。

都支部を巡る状況も、10年以上の年月の間には変化します。「平日に食育授業に参加出来る都支部会員は少ない」
という、この事実はどうしようもないことかと思えます。この事実を目をつぶって、その矛盾を都支部役員や、
いつも頼まれて引き受けて下さる会員が背負う、という構造は、今はギリギリ成り立っていても、将来に渡って
続けてゆけるでしょうか。また、前回のご意見で仰っていたように、この活動が、協会活動として重要だから支
え続けなければならない、というならば、協会が継続困難な支部活動の運営に手を差し伸べてくれるでしょうか。
ブロックに対して、質問を投げかけたことはあります。(ブロックが、支部活動に干渉しないことは承知していま
すが、協会の考え方について伺う先はブロック以外に思いつかなかったので。)役員負担についてはNPO法人の
性質上、労力に見合った報酬はない、ボランティア活動に近いものと考えたべきではないか、との回答を得てい
ます。理屈は正にその通りです。しかし現実には、将来に渡って、仕事を持っていたり、プライベートでも様々な
事情を抱えた会員が役員業務を引き受け、また、事情を押して食育活動に参加し続ける事ができるのか。
今が、それを検証し、将来の破綻を防ぐギリギリのタイミングであると考えました。

役員は、一度なったら任期中、絶対に辞めることが出来ない、というものではありません。食育担当役員が、「生
生活を圧迫するので役員を辞めたい」という事態になったらどうしようもありません。さらに、任期のない食育チ

ーフは新たな人員の補充がなければ「辞めれば他のチーフが負担を背負う」という構造です。

都支部役員会は、食育プロジェクトをただ投げ出そうとしているのではありません。協力できる部分に関しては今後も協力を続けますし、都支部会員で食育活動に興味のある方は、引き続きスタッフ参加し続けるでしょう。また、個人活動にすることによって、チーフ(リーダー役)の授業に対する自由度は上がると思われます。2019年の話し合いで、組合からは、「お茶を淹れる実習の部分以外は自由に内容を決めてもらって良い」とのご意見を頂いています。そうであれば、支部活動であるよりも、むしろ個人活動にふさわしいのではないのでしょうか。食育に意欲のあるインストラクターと、組合の共同事業、ということであれば、必ずしも支部活動にしなければならない理由は見当たりません。

現在、支部活動として運営している「食育プロジェクト」ですが、どうしてもこの形にこだわらなくてはならない理由があるのでしょうか。移行のための1年間、都支部役員会は組合との協力体制で、この活動の持続可能な形を探ってゆきたいと考えています。食育の理念には、心から賛同致します。

(支部長 桑原葉子)